

## 『こども食堂通信』NO.7

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

### 子ども食堂訪問記⑥♪「こども食堂ぐれーす」編

(札幌市手稲区曙2条2丁目4-15 グレースコミュニティ1階)

#### (こども食堂の雰囲気)

6月6日、「こども食堂ぐれーす」(以下「ぐれーす」と省略)にお邪魔しました。玄関前で子どもたちが遊んでいたの、すぐにわかりました。看板には「完売」の札が。まだ開始時間から30分しかたっていない。中に入ると、たくさん子どもや保護者の方がいます。この日はちょうど「2周年感謝パーティー」で美味しそうなお料理が並んでいます。バイキング形式は大人気ですね。

母親と一緒に幼児が多く、友だちと来ている小学生もいました。ランドセルがあったので学校帰りに参加しているようです。スペースが広く、風船遊びをしている子、座って絵をかいている子など、スタッフの見守りの中でみんなが楽しく過ごしています。

#### (代表の思い)

ぐれーすは、他の団体が食べられない子を支援しているのを知り、今の時代にもそういう子どもがいることに驚き、自分たちにも何かできないかという思いから、仲間数人と始めました。

しかし、当初は、厨房がなく、毎回保健所への届け出が必要で参加人数も限られ、幼稚園や小学校にも案内できずに、本当に困った子が参加しているのかというジレンマがありました。

その後、教会が善意で厨房を作ってください、保健所への届け出や人数制限もなくなり、現在は毎月第1・2・3水曜に30食、ほぼ完食のため、大人のみ参加はお断りしています。予約もできます。

代表は、こちらから詮索することはありません。「家ではイライラして子どもにあたることがあるがここでは子どもと一緒に笑顔で食事ができる」、「2世帯住宅の下階に祖父母がいるため、子どもが飛び跳ねたりすると、気を遣い叱ってしまう。ここでは思い切り遊ばせることができ、子どももののびのびして楽しそう」と言うお母さんたちの声を聞き、今でも、当初の思い(食事できない子)を気にかけてはいますが、こういった場所も必要なんだと思うようになったそうです。

今年の成人式には「成人式振袖無料レンタル支援」も行いました。一生に一度の成人式。着物を着せたい、着たいという「思い」に寄り添った支援も印象的です。

ボランティアの中には教員を退職した方もいるので、学習支援にも力を入れていきたいとのこと。

#### 北海道社会福祉士会道央地区支部から

今まで訪問した子ども食堂では、親子の参加が多くみられました。子ども食堂は「孤食」、「貧困」など「子どもの社会問題」を解決する役割もあるでしょうが、「育児のイライラ」や「他人との関わり」など子どもを育てる日頃のちょっとした「困り事」を解消してくれる役割ももっていると今回の訪問であらためて感事しました。

子ども食堂が増えている要因には、今まで家族が果たしてきた役割が、家族だけでは担えきれなくなってきたのもひとつかも知れません。

今回の訪問は、「子どもたちがたくさん集まっているのが気になっていた」ぐれーすの近所に住む会員も一緒でした。地域包括支援センターの紹介や近隣のマンション・自治会の話などの情報を発信できるのは、ご近所同士だからこそです。

今回で7カ所目の訪問ですが、子ども食堂皆さんの共通点は、「行動力」と、「大勢の仲間」。

私たちの活動にも共通すると教えられます。

一人での利用はちょっと・・・という会員の皆さん!!「ここに行ってみよう」というところなどあれば、情報をお寄せください。

#### 【豆知識】

「地域包括支援センター」って?

札幌市内には27カ所あります。高齢者の方々が住み慣れた地域でいつまでも暮らせるように必要なサービスを調整したり、支援を行うなど、高齢者の総合相談窓口、支援機関と位置づけられています。センターには、主任介護支援専門員、保健師、社会福祉士が配置されています。

これってどこに相談したらいいのかな?と迷ったときは、相談してみてください。